

道徳教科書の傾向をデータから探る

— 基礎的データを踏まえた実証的な授業と研究のために —

元 笑 予 布 施 梓 柄本健太郎
永田 繁雄 松尾 直博（東京学芸大学）

1. 研究の背景

小・中学校学習指導要領の道徳教育の部分については、平成 27 年度に一部改訂が図られ、小学校では平成 30 年度から、中学校では 31 年度から「道徳の時間」が「特別の教科道徳」（以下、道徳科）となり、全面実施された。それによれば、道徳科の指導の目標は、「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」（括弧内は中学校）ことであるとしている。

道徳科は、教科化に伴い、検定教科書を使用することとなった。教科書には一冊ごとに約 35 の教材が掲載され、それぞれに内容項目と道徳性の観点（学習指導要領が示す諸様相）に応じたねらいが置かれた。また、内容項目は、いじめ問題等への対応の充実を図り、発達段階をより一層踏まえた体系的なものに改善された。内容項目のまとまりを示す四つの視点については、従前の「3 主として自然や崇高なものとの関わりに関すること」「4 主として集団や社会との関わりに関すること」について、児童生徒にとっての対象の自然な広がり即して順序を入れ替え、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」となった（文部科学省、2017a・2017b）。その中で、小学校では「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」の内容項目が低学年や中学年段階から適時的に追加され、中学校段階にあった「よりよく生きる喜び」が小学校高学年段階にも加えられた。中学校では「思いやり」と「感謝」の内容項目の融合などにより内容項目数が絞られた。

一方、平成 24 年度東京学芸大学の調査によれば、「道徳の授業の実施状況の受け止め」について、道徳の授業を十分実施できていると思う教員は小学校で 3 人に 1 人、中学校では 4 人に 1 人であった。また、平成 24 年度文部科学省道徳教育実施状況の調査では、学年が上がるにつれて道徳の授業を「楽しい」「ためになる」と感じている割合が低下している。道徳授業の教科化への過程においても、教員のとまどいが見られている。

このような状況の中、今後の道徳科の指導では、教科化に伴って使用が義務付けられた教科書が重要な役割を果たすことになる。そのため、目標や内容項目の変更や改訂が教科書にどう反映されたか調べる必要がある。小学校及び中学校の「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（以下「解説書」）（文部科学省、2017a・2017b）によれば、道徳科の「主題」は、指導を行うに当たって、何を「ねらい」とし、どのように「教材」（教科化前は一般に「資料」と呼ばれた）を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。

道徳が教科化される前には、柄本・永田（2013）が道徳副読本の実態研究を行っている。

そこでは、道徳副読本のデータに基づく授業計画・実施（例. 判断力の重視）や、研究のたたき台となる以下の知見が得られた。(1)内容項目間での掲載量のばらつき、(2)小・中学校の全学年で「心情」「態度」「意欲」の育成を図る道徳性の観点が大半を占め、「判断力」のねらいは少なかったこと、(3)小学校低学年での「かぼちやのつる」のような多くの副読本が取り上げる資料の存在等である。しかし、道徳科の全面実施以来、教科書に関する詳細な分析例はまだ見られない。そのため、道徳教科書のデータ等を研究することは焦眉の課題になる。また、本研究によって、教科書に反映された「道徳科」の特徴が明確になり、授業を行う教員のとまどいの軽減にもつながると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、日本全国の小・中学校で使用されている教科書における基礎的データを踏まえた上で、道徳教科書における内容項目・道徳性の観点・教材内容の取り上げ方や表現の仕方の特色を探る。

3. 研究の方法

1. **対象** 小学校・中学校用教科書に掲載されている計 2,494 件の教材を対象とした。対象とした全国版道徳教科書教材を表 1 に示す。「補充教材」として掲載された教材をカウントしたが、「付録」として掲載された教材は今回統計上から除外している。

表 1 教科書教材のデータ数

出版社	小学校							中学校			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計
東京書籍	34	35	35	35	35	35	209	30	30	30	90
学校図書	34	35	35	35	35	35	209	35	35	35	105
教育出版	33	34	34	34	34	34	203	35	35	35	105
光村図書	34	35	35	35	35	35	209	34	34	34	102
日本文教出版	34	35	35	35	35	35	209	35	35	35	105
光文書院	34	35	35	35	35	35	209	—	—	—	—
学研教育みらい	34	35	35	35	35	35	209	35	35	35	105
廣済堂あかつき	34	35	35	35	35	35	209	35	35	35	105
日本教科書	—	—	—	—	—	—	—	37	37	37	111
合計	271	279	279	279	279	279	1666	276	276	276	828

小学校 小学校は 8 社の小学校道徳教科書教材で掲載された教材名及び内容項目を使用した。小学校 1 年生は、内容項目の数が他の学年と異なり、34 となっている（教育出版は 33 である）。これは、文部科学省が示す道徳の標準授業時数に合わせているためと考えられる。

中学校 中学校は 8 社の中学校道徳教科書教材で掲載された教材名及び内容項目を使用した。東京書籍と日本教科書以外は、合計は 35 となっている。東京書籍は 30 となっている。日本教科書は 37 となっている。

2. 手続き

(1) ねらいとする内容項目の分析

内容項目及び四つの視点がどのように扱われているかを分析するために、新学習指導要領を基に整理する。さらに、小学校と中学校をそれぞれ分析する。

(2) ねらいに表れた道徳性の観点の分析

柄本・永田（2013）の「道徳性の観点」を基に、分類を行った。分類基準は、道徳教育を専門とする大学教員1名、教育学を専門とする研究員1名、教育心理学を専門とする研究員1名が協議を重ねて作成した。基準のうち「判断力」、「心情」、「意欲」、「態度」、「習慣化」の5つは文部科学省（2008）の道徳性を捉える側面を基にした。分類基準を基に、重文で構成されているねらい文は、末尾の表現で判断した（例えば、「人は互いに支え合って生きていることに気づき、思いやりの心をもって人と接しようとする心情を育む。」の場合、「心情を育む」で分類した）。

(3) 複数掲載教材の分析

複数の教科書に掲載されている教材の傾向を探るために、各教科書の読み仮名を使用し、掲載回数をカウントした。教材内容に基づくカウントではないため、異なる内容の教材であっても、教材名が同じ読み方であれば重複してカウントした。また逆に、同一内容の教材であっても教材名の読み方が異なれば、別にカウントした。

4. 結果と考察

1. ねらいとする内容項目の分析

学校・学年ごとの内容項目数の傾向を検討するために、クロス集計を行った。結果は表2～表4に示す。

表2 各教科書で取り上げる主題を構成する内容項目の総数

		内容項目の四つの視点				合計
		A	B	C	D	
小学校	1年	84	62	81	44	271
	2年	81	64	87	47	279
	3年	73	73	90	43	279
	4年	72	72	91	44	279
	5年	71	61	93	54	279
	6年	77	60	88	54	279
中学校	1年	57	55	109	55	276
	2年	58	55	110	53	276
	3年	57	52	111	56	276

各教科書で取り上げる主題を構成する内容項目の総数の結果（表2）から見ると、AとBの視点について、小学校・中学校は学年が上がると数が減り、低学年の方は自分自身と人との関わりがより重視される。CとDの視点について、学年が上がると数が増え、高学年・中学校の方は集団や社会の関わりと生命や自然、崇高なものとの関わりがより重視される。

表3 小学校の内容項目数の内訳

内容項目	小学校												合計
	1年		2年		3年		4年		5年		6年		
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	
A 主として自分自身に関すること													
善悪の判断、自律、自由と責任	21	7.7%	21	7.5%	17	6.1%	17	6.1%	15	5.4%	18	6.5%	109
正直、誠実	14	5.2%	14	5.0%	13	4.7%	12	4.3%	9	3.2%	10	3.6%	72
節度、節制	24	8.9%	21	7.5%	19	6.8%	17	6.1%	13	4.7%	13	4.7%	107
個性の伸長	12	4.4%	10	3.6%	10	3.6%	10	3.6%	9	3.2%	10	3.6%	61
希望と勇気、努力と強い意志	13	4.8%	15	5.4%	14	5.0%	16	5.7%	16	5.7%	17	6.1%	91
真理の探究									9	3.2%	9	3.2%	18
B 主として人との関わりに関すること													
親切、思いやり	18	6.6%	22	7.9%	20	7.2%	19	6.8%	16	5.7%	17	6.1%	112
感謝	11	4.1%	10	3.6%	11	3.9%	9	3.2%	8	2.9%	9	3.2%	58
礼儀	16	5.9%	17	6.1%	12	4.3%	12	4.3%	7	2.5%	8	2.9%	72
友情、信頼	17	6.3%	15	5.4%	19	6.8%	21	7.5%	15	5.4%	14	5.0%	101
相互理解、寛容					11	3.9%	11	3.9%	15	5.4%	12	4.3%	49
C 主として集団や社会との関わりに関すること													
規則の尊重	18	6.6%	19	6.8%	19	6.8%	18	6.5%	15	5.4%	13	4.7%	102
公正、公平、社会正義	11	4.1%	12	4.3%	12	4.3%	11	3.9%	11	3.9%	11	3.9%	68
勤労、公共の精神	9	3.3%	11	3.9%	11	3.9%	12	4.3%	14	5.0%	11	3.9%	68
家族愛、家庭生活の充実	9	3.3%	12	4.3%	13	4.7%	13	4.7%	10	3.6%	10	3.6%	67
よりよい学校生活、集団生活の充実	14	5.2%	11	3.9%	10	3.6%	12	4.3%	12	4.3%	13	4.7%	72
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	11	4.1%	12	4.3%	16	5.7%	16	5.7%	18	6.5%	18	6.5%	91
国際理解、国際親善	9	3.3%	10	3.6%	9	3.2%	9	3.2%	13	4.7%	12	4.3%	62
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること													
生命の尊さ	23	8.5%	24	8.6%	23	8.2%	21	7.5%	21	7.5%	20	7.2%	132
自然愛護	11	4.1%	12	4.3%	9	3.2%	12	4.3%	13	4.7%	12	4.3%	69
感動、畏敬の念	10	3.7%	11	3.9%	11	3.9%	11	3.9%	9	3.2%	9	3.2%	61
よりよく生きる喜び									11	3.9%	13	4.7%	24

小学校の結果を道徳の内容項目における四つの視点ごとに見ていくと(表3)、全体的に「生命の尊さ」が一番多い。次に「親切、思いやり」が二番目に多い。これは小学校における道徳の内容項目の重点化の傾向に合致しているとみられる。

具体的にみると、「A 主として自分自身に関すること」では、小学校低・中学年において「節度、節制」「善悪の判断、自律、自由と責任」に関わる内容項目が多かった。一方、小学校低・中学年で「個性の伸長」「希望と勇気、努力と強い意志」、高学年で「正直、誠実」「真理の探究」に関する項目が少なかった。

「B 主として人との関わりに関すること」では、小学校において「親切、思いやり」に関わる内容項目が多かった。「友情、信頼」に関わる内容項目が小学校中高学年で多かった。「感謝」「礼儀」「相互理解、寛容」が少なかった。

「C 主として集団や社会との関わりに関すること」では、小学校1年から5年まで「規則の尊重」に関わる内容項目が多かった。また、小学校高学年では、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」が多かった。

「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」では、「生命の尊さ」に関わる項目が小学校全体を通して多かった。

表4 中学校の内容項目数の内訳

内容項目	中学校						
	1年		2年		3年		合計
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数
A 主として自分自身に関すること							
自主、自律、自由と責任	15	5.4%	15	5.4%	15	5.4%	45
節度、節制	12	4.3%	13	4.7%	12	4.3%	37
向上心、個性の伸長	9	3.3%	10	3.6%	9	3.3%	28
希望と勇気、克己と強い意志	13	4.7%	12	4.3%	11	4.0%	36
真理の探究、創造	8	2.9%	9	3.3%	10	3.6%	27
B 主として人との関わりに関すること							
思いやり、感謝	16	5.8%	16	5.8%	16	5.8%	48
礼儀	8	2.9%	8	2.9%	8	2.9%	24
友情、信頼	19	6.9%	18	6.5%	18	6.5%	55
相互理解、寛容	12	4.3%	13	4.7%	11	4.0%	36
C 主として集団や社会との関わりに関すること							
遵法精神、公德心	16	5.8%	14	5.1%	15	5.4%	45
公正、公平、社会正義	15	5.4%	15	5.4%	15	5.4%	45
社会参画、公共の精神	13	4.7%	16	5.8%	16	5.8%	45
勤労	11	4.0%	11	4.0%	10	3.6%	32
家族愛、家庭生活の充実	10	3.6%	9	3.3%	10	3.6%	29
よりよい学校生活、集団生活の充実	10	3.6%	9	3.3%	8	2.9%	27
郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	15	5.4%	11	4.0%	10	3.6%	36
我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	9	3.3%	12	4.3%	12	4.3%	33
国際理解、国際貢献	11	4.0%	12	4.3%	14	5.1%	37
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること							
生命の尊さ	21	7.6%	20	7.2%	21	7.6%	62
自然愛護	8	2.9%	9	3.3%	8	2.9%	25
感動、畏敬の念	8	2.9%	8	2.9%	9	3.3%	25
よりよく生きる喜び	17	6.2%	16	5.8%	18	6.5%	51

中学校の結果を道徳の内容項目における四つの視点ごとに見ていくと（表4）、全体的に「生命の尊さ」が一番多い。次に「友情、信頼」が二番目に多い。ここから中学校の内容項目について、これらが最も重点化される傾向が強いことがわかる。

具体的にみると、「A 主として自分自身に関すること」では、中学校1年において「節度、節制」・「自主、自律、自由と責任」に関わる内容項目が多かった。さらに、中学校2・3年でも「自主、自律、自由と責任」が多かった。

「B 主として人との関わりに関すること」では、中学校2・3年では、「思いやり、感謝」が多かった。一方、「礼儀」・「相互理解、寛容」が少なかった。

「C 主として集団や社会との関わりに関すること」では、中学校2・3年では、「社会参画、公共の精神」・「公正、公平、社会正義」が多かった。中学校1・3年では、「遵法精神、公德心」が多かった。

「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」では、「生命の尊さ」の項目が中学校全体を通して多かった。中学校では、「よりよく生きる喜び」も多かった。

表5 小学校と中学校における内容項目の順位（5位まで）

		1位	2位	3位	4位	5位（同率含む）
小学校	1年	A 節度、節制 (1)	D 生命の尊さ (2)	A 善悪の判断、自律、自由と責任 (5)	B 親切、思いやり (3)	B 友情、信頼 (6)
	2年	D 生命の尊さ (2)	B 親切、思いやり (4)	A 善悪の判断、自律、自由と責任 (8) A 節度、節制 (1)		C 規則の尊重 (3)
	3年	D 生命の尊さ (2)	B 親切、思いやり (5)	A 節度、節制 (1) B 友情、信頼 (2) C 規則の尊重 (2)		
	4年	B 友情、信頼 (1) D 生命の尊さ (4)		B 親切、思いやり (5)	C 規則の尊重 (2)	A 善悪の判断、自律、自由と責任 (13) A 節度、節制 (2)
	5年	D 生命の尊さ (1)	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 (6)	A 希望と勇気、努力と強い意志 (2) B 親切、思いやり (6)		A 善悪の判断、自律、自由と責任 (14) B 友情、信頼 (2) B 相互理解、寛容 (17) C 規則の尊重 (2)
	6年	D 生命の尊さ (1)	A 善悪の判断、自律、自由と責任 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 (2)		A 希望と勇気、努力と強い意志 (3) B 親切、思いやり (5)	
中学校	1年	D 生命の尊さ (1)	B 友情、信頼 (8)	D よりよく生きる喜び (8)	C 遵法精神、公德心	C 公正、公平、社会正義 (15) C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 (18)
	2年	D 生命の尊さ (1)	B 友情、信頼 (13)	B 思いやり、感謝 C 社会参画、公共の精神 D よりよく生きる喜び (3)		
	3年	D 生命の尊さ (1)	B 友情、信頼 (17) D よりよく生きる喜び (5)		B 思いやり、感謝 C 社会参画、公共の精神	

※（ ）内は柄本・永田（2013）の順位である。

小学校と中学校における内容項目の順位を1～5位まで取り上げた（表5）。括弧の中に示すのは、柄本・永田（2013）の順位である。ただ、中学校ではA「善悪の判断、自律、自由と責任」、B「思いやり、感謝」、C「社会参画、公共の精神」の3項目は、新たな位置付けの変更があり、前回改訂時の内容項目と直接比較できないものである。

小学校と中学校における内容項目の順位から見ると、以下のことが明らかになった。

○内容項目の重点化

小学校から中学校まで、「生命の尊さ」の内容項目はすべて一位となっており、各教科書における内容項目の重点化が十分にうかがえる。これは道徳教育そのものの目標と方向性が一致している。道徳教育の目標の全体的な方向として、生命尊重の意識が育成されることによって、生きることのすばらしさや人間としての在り方や生き方の自覚を深めることを求めていることが見られるからである。生命とは、他の何ものにも代え難い「かけがえのないもの」であり、人間の存在の根幹である。すべての道徳性は、生命が尊重されてはじめて成り立つものであると考えられる。

○いじめへの対応

小学校高学年と中学校において「友情、信頼」の内容項目が上位に位置している。特に、中学校段階では、「友情、信頼」の項目が増えている。これは、生徒に現在の重要な課題であるいじめについて多面的に考える機会を設けようとする方向性の表れではないかと考えられる。また、小学校低学年において、「善悪の判断、自律、自由と責任」の内容項目が上位になり、ここでも「判断力」重視の傾向がうかがえる。「善悪の判断」は「公正、公平、社会正義」や「友情、信頼」ともつながり、いじめに関する課題への対応により強く関わる内容項目であると考えられる。

2. ねらいに表れた道徳性の観点の分析

柄本・永田（2013）の「道徳性の観点」を基に、小学校・中学校の道徳性の観点の分類基準を作成した（表6）。イタリック体の文末表現は今回に新たに抽出したものである。今回調査では柄本・永田（2013）から抽出していなかったものを削除した。ただ、「知的追究」、「自覚」、「実践力」については今回は抽出されていないこともあり、そのまま掲載した。

学校・学年による観点の変化を検討するために、クロス集計を行った。全体的な傾向として、小・中学校で共通して「心情」・「意欲」・「態度」が多く見られたが、「心情」は類似の表現に絞られ、数が減っていた。また、「複合」については、「判断力と心情」の表現が新たに出てきた。その中で、今回、「判断力」に関する末尾表現が増加し、東風（2013）と柄本・永田（2013）で得られた「判断力」の表現が少ないとする先行研究からは変化が見られた。これは、「考え、議論する道徳」としての主旨が反映され、各教科書出版社が「判断力」を意識しながら教材を組み込んだことの結果であると考えられる。

表7は柄本・永田（2013）を基に、主題のねらいで取り上げられる道徳性の観点を分析した。上の段は今回取り上げられている道徳性の観点の数で、真ん中の段は割合である。一番下の段は柄本・永田（2013）の割合である。ここより、「判断力」が先行研究時より増えてきたことが明確にわかる。また、「意欲」「習慣化」「複合」「その他」が前より増えた。一方、「心情」「態度」「認識・理解」が前回より減少した。「知的追究」「自覚」「実践力」は今回抽出されていなかった。以前より、長く「…の心情（態度）を育てる」と情意的側面が重視されてきていたが、現在、「考え、議論する道徳」が強調されており、道徳性を多面的に受け止めてねらいを位置づける必要性が反映されたものと考えられる。このことは、2014年の中央教育審議会の道徳教育専門部会において、道徳性の認知的、情意的、行動的側面をバランスよく育むことが主張されていたことにも合致する。

表6 小学校・中学校の道徳性の観点の分類基準

分類	定義	文末表現の具体例
ア 判断力	判断力を育むことが示されているもの	判断力を高める、判断力を養う、 (新) 判断力を育てる、判断力の高まりを目指す、判断力を育成する、判断することができる力を育てる、判断する力を育てる
イ 心情	心情、心、～の念、思い、気持ちなど、心情を育むことが示されているもの	心を育てる、心情を育む、心情を深める、心情を養う、心を育てる、心をもつ、 (新) 心情を培う、気持ちを養う、念を深める、念を育てる、念を持つ、気持ちを育てる
ウ 意欲	意欲、および意志を育むことが示されているもの	意欲を高める、意欲を育てる、意欲を培う、意欲を養う、実践意欲を培う、意志を育てる (新) 意欲を持つ
	～しようとするといった、具体的な行動が示されているもの	～しようとする
エ 態度	態度、姿勢、および心構えを育むことが示されているもの	態度を育てる、態度を養う (新) 生き方を求める、意識を養う
オ 認識理解	認識、および理解を目的とすることが示されているもの	(新) 考えを深める
	気づく、捉えるといったことを目的とするもの	気づく
	何かを知ることを目的とするもの	知る
カ 知的追究	考えるといった知的追求を目的とすることが示されているもの	～について考える、～考えさせる、追求する、考えるようにする
キ 自覚	自覚すること、深めることを目的とすることが示されているもの	自覚を深める、自覚をさせる、自覚をもつ、自覚をする、自覚を養う、実感することができる
ク 実践力	実践力の習得を目的とすることが示されているもの	実践する力
ケ 習慣化	日常的に具体的な行動ができるようになることを目的とすることが示されているもの	できるようにする、～するようになる、生活する (新) できる、～に心かける
コ 複合	複数の要素が含まれて示されているもの	心情と態度、意欲と態度、 (新) 判断力と心情
サ その他	上記にあてはまらないもの	感謝する、関心を持つ (新) 愛着を持つ、気持ちを持つ、愛情を感じる、友人関係を育てる、助け合う、～しあう、～の輪を広げる、～持って接する、～念を持つ、～について学ぶ、精神を育てる

※ 「知的追究」、「自覚」、「実践力」は参考までに 柄本・永田 (2013) のものをそのまま示した。

表7 主題のねらいで取り上げられる道徳性の観点

分類	小学校							中学校				
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計	
ア	判断力	10	15	10	15	7	9	66	18	14	12	44
	割合	3.7%	5.4%	3.6%	5.4%	2.5%	3.2%	4.0%	6.5%	5.1%	4.3%	5.3%
	過去	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.6%)	(0.3%)	(0.1%)	(0.6%)	(0.3%)	(1.3%)	(0.7%)
イ	心情	114	95	90	101	84	81	565	90	105	102	297
	割合	42.1%	34.1%	32.3%	36.2%	30.1%	29.0%	33.9%	32.6%	38.0%	37.0%	35.9%
	過去	(50.6%)	(53.1%)	(52.9%)	(52.0%)	(43.4%)	(46.0%)	(49.7%)	(34.7%)	(38.5%)	(27.1%)	(33.4%)
ウ	意欲	45	43	58	52	57	58	313	51	49	52	152
	割合	16.6%	15.4%	20.8%	18.6%	20.4%	20.8%	18.8%	18.5%	17.8%	18.8%	18.4%
	過去	(12.6%)	(9.4%)	(9.7%)	(9.4%)	(11.7%)	(12.3%)	(10.9%)	(13.7%)	(11.5%)	(15.3%)	(13.5%)
エ	態度	40	52	57	46	59	58	312	67	61	73	201
	割合	14.8%	18.6%	20.4%	16.5%	21.1%	20.8%	18.7%	24.3%	22.1%	26.4%	24.3%
	過去	(31.2%)	(29.4%)	(30.3%)	(31.4%)	(39.7%)	(36.3%)	(33.1%)	(45.5%)	(40.1%)	(49.4%)	(45.0%)
オ	認識・理解	0	0	0	0	1	5	6	2	0	3	5
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.8%	0.4%	0.7%	0.0%	1.1%	0.6%
	過去	(2.6%)	(2.6%)	(3.4%)	(2.9%)	(2.6%)	(1.1%)	(2.5%)	(0.0%)	(2.2%)	(0.3%)	(0.8%)
カ	知的追究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	過去	(0.0%)	(0.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.6%)	(0.0%)	(0.2%)	(0.0%)	(1.0%)	(0.6%)	(0.5%)
キ	自覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	過去	(0.6%)	(0.3%)	(0.0%)	(0.9%)	(0.6%)	(0.0%)	(0.2%)	(1.0%)	(1.6%)	(2.2%)	(1.6%)
ク	実践力	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	過去	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.3%)	(0.1%)
ケ	習慣化	33	35	34	34	34	34	204	0	0	0	0
	割合	12.2%	12.5%	12.2%	12.2%	12.2%	12.2%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	過去	(2.1%)	(2.6%)	(1.4%)	(0.9%)	(0.9%)	(1.7%)	(1.6%)	(0.6%)	(1.3%)	(1.0%)	(1.0%)
コ	複合	28	34	28	28	33	30	181	48	45	34	127
	割合	10.3%	12.2%	10.0%	10.0%	11.8%	10.8%	10.9%	17.4%	16.3%	12.3%	15.3%
	過去	(0.0%)	(1.4%)	(0.9%)	(2.3%)	(0.0%)	(1.7%)	(1.6%)	(2.5%)	(1.6%)	(1.9%)	(2.0%)
サ	その他	1	5	2	3	4	4	19	0	2	0	2
	割合	0.4%	1.8%	0.7%	1.1%	1.4%	1.4%	1.1%	0.0%	0.7%	0.0%	0.2%
	過去	(0.3%)	(0.6%)	(1.4%)	(0.3%)	(0.0%)	(0.3%)	(0.5%)	(1.3%)	(1.9%)	(0.6%)	(1.3%)
合計	271	279	279	279	279	279	1666	276	276	276	828	

3. 複数掲載教材の分析

複数回掲載されている教材名の種類数を表8、掲載回数の多い教材名を表9に示す。小学校低学年掲載教材名は550、中学年は558、高学年は558で、中学校は828である。

表 8 複数掲載教材名の種類数

掲載回数	小学校			中学校
	低学年	中学年	高学年	
8回	3	2	0	1
7回	3	0	2	0
6回	2	2	2	3
5回	2	2	2	3
4回	1	6	6	5
3回	6	6	6	13
2回	18	20	13	36
1回	425	438	454	651
合計	550	558	558	828

表 9 掲載回数の多い教材名 (5回以上)

小学校			中学校
低学年	中学年	高学年	
<ul style="list-style-type: none"> ・はしのうえのおおかみ(8) ・きんのおの(8) ・かぼちやのつる(8) ・はむすたーのあかちゃん(7) ・にわのことり(7) ・きいろいべんち(7) ・ななつのほし(6) ・ぐみのきとことり(6) ・きつねとぶどう(5) ・およげないりすさん(5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・あめのぼすていりゅうじょで(8) ・はなさきやま(8) ・えはがきときって(6) ・めざましどけい(6) ・ひきがえるとろば(5) ・よわむしたろう(5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・てじなし(7) ・ぶらんこのりとびえろ(7) ・あおのどうもん(6) ・うばわれたじゅう(6) ・ぎんのしょくだい(5) ・ろれんぞのともだち(5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・たびのきせつ(8) ・いっさつのの一と(6) ・うらにわでのできごと(6) ・につうのてがみ(6) ・ぎんいろのしゃーぷべんしる(5) ・そつぎょうぶんしゅうさいごのにぎょう(5) ・ねっとしょうぎ(5)

※「手品師」と「二通の手紙」は付録としての掲載もあるが、今回の基準によりカウントから除外された。

8社の教科書に8回以上掲載（つまり全社の教科書に掲載）された教材は、小学校低学年は3つあり、「はしのうえのおおかみ」、「きんのおの」、「かぼちやのつる」である。中学年は2つあり、「あめのぼすていりゅうじょで」と「はなさきやま」である。中学校は1つあり、「たびのきせつ」である。7回掲載された教材については、小学校低学年は3つあり、「はむすたーのあかちゃん」、「にわのことり」、「きいろいべんち」である。高学年には2つあり、「てじなし」、「ぶらんこのりとびえろ」である。6回掲載された教材は小学校低学年には2つあり、「ななつのほし」、「ぐみのきとことり」である。中学年は「えはがきときって」、「めざましどけい」の2つである。高学年は「あおのどうもん」、「うばわれたじゅう」の2つである。中学校は3つあり、「いっさつのの一と」、「うらにわでのできごと」、「につうのてがみ」である。5回掲載された教材については、小学校低学年は2つあり、「きつねとぶどう」、「およげないりすさん」である。中学年は、「ひきがえるとろば」、「よわむしたろう」の2つ、高学年は、「ぎんのしょくだい」、「ろれんぞのともだち」の2つである。中学校は、「ぎんいろのしゃーぷべんしる」、「そつぎょうぶんしゅうさいごのにぎょう」、「ねっとしょうぎ」の3つとなっている。

教科書に取り上げられる教材の掲載の傾向について、その掲載回数の多い教材には、旧文部省出自の教材(いわゆる「文部省資料」)に加え、名作童話・物語を道徳教材化したものが多かった。各社が独自教材を選択・開発し教科書に掲載するだけでなく、定評のある教材を積極的に掲載しようとした結果であると考えられる。また、従前の副読本にも収録され、引き続き各社で共通に使われている教材も多数存在している。

5. まとめ

本研究によって小・中学校の道徳教科書の種々の傾向が把握でき、データに基づく授業計画・実施への知見などが得られた。たとえば、(1)いじめの課題等に関する内容項目の重点化が見られること、(2)道徳性の観点について、小・中学校の全学年で多かった「心情」「態度」「意欲」以外にも「判断力」のねらいが多くなっていること、(3)従来の副読本にも収録され、引き続き各社の教科書で共通して扱われた教材が存在することなどである。

今後、教材のねらい等を具体的な授業実践にどう生かすかなどについて、さらに研究を続ける必要があると考えている。

【分析対象の道徳教科書】

<小学校>

東京書籍株式会社

<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/doutoku/>

学校図書株式会社

<https://gakuto.co.jp/2020tokusetsu/doutoku/>

教育出版株式会社

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/2020shou/dotoku/index.html>

光村図書出版株式会社

https://www.mitsumura-tosho.co.jp/2020s_kyokasho/dotoku/

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/2020/s-doutoku/textbook/>

株式会社 光文書院

https://www.kobun.co.jp/kyokasho_hukudokuhon/dotoku/tabid/518/Default.aspx

株式会社 学研教育みらい

<https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/2020text/doutoku/index.html>

廣済堂あかつき株式会社

<https://www.kosaidoakatsuki.jp/doutoku-syogakusei2020>

<中学校>

東京書籍株式会社

<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/spl/doutoku/>

学校図書株式会社

<https://gakuto.co.jp/kyokasyo/16c-dotoku-2/>

教育出版株式会社

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/docs/chudoutoku/index.html>

光村図書出版株式会社

https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/c_dotoku/index.html

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/doutoku/chu/h31textbooks/>

株式会社 学研教育みらい

<https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/cdoutoku/>

廣済堂あかつき株式会社

<https://www.kosaidoakatsuki.jp/doutoku-cyugakusei>

日本教科書株式会社

<http://www.nihon-kyokasho.co.jp/guidance/>

【引用文献】

東風安生(2012). 道徳授業における心情育成への偏りの背景. 道徳教育方法研究、18、pp. 11-20.

国立大学法人東京学芸大学学務部学務課・「総合的道徳教育プログラム」推進プロジェクト(2012). 教職資料 新しい道徳教育—改訂版—. 東京、東洋館出版.

柄本健太郎・永田繁雄(2013). 全国版道徳副読本の資料の傾向をデータから探る—基礎的データを踏まえた実証的な授業と研究のために—. 道徳教育方法研究、第19号、pp. 31-40.

文部科学省(2012). 「道徳教育実施状況調査」平成24年

文部科学省(2015). 学習指導要領解説(平成27年7月)「小学校__特別の教科__道徳編」
<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_6.pdf> (2019年9月15日取得)

文部科学省(2016). いじめに正面から向き合う「考え、議論する道徳」への転換に向けて(文部科学大臣メッセージ)について(平成28年11月18日)
<http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/11/1379623.htm> (2019年9月15日取得)

文部科学省(2017a). 学習指導要領解説(平成29年7月)「小学校__特別の教科__道徳編」
<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_012.pdf> (2019年9月15日取得)

文部科学省(2017b). 学習指導要領解説(平成29年7月)「中学校__特別の教科__道徳編」
<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_011.pdf> (2019年9月15日取得)

謝辞

本研究は、東京学芸大学「OECDとの協働による次世代型コンピテンシー育成のための授業・評価方法開発とその国内外への発信」(文部科学省機能強化経費「機能強化促進分」対象事業)の研究成果の一部です。ご協力いただいた東京学芸大学次世代教育研究推進機構の田中咲也子、松田ゆり、富士田匠、大谷維吹、宮崎理央、山本詩央理さんに感謝を申し上げます。